自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅳ 組織運営

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	外部評価委員のコメント
特色ある学校づくりが計画的・組織的に推進されている。	前期	おおむね良好	良好	○有浦型ふるさとキャリア教育をはじめ、特色ある教育活動が効果的に推進されているように感じる。発達段階に応じて、各学年で工夫ある展開を一層期待する。 ○保護者や地域が子どもたちの健やかな成長を願い、協力的に関わってくれていることには感謝しかない。
	年度	おおむね良好	良好	○時代の変化に対応し、情報連絡ツールのTetoruを有効活用しながら取組を進めていることはすばらしい。 ○熊対応については、子どもの命を守ることからもとても重要。この春からも同じような状況が続く可能性があるため、引き続き対応をお願いしたい。 ○次年度は、学校から外へ発信する取組を強化していく。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】
①特色ある教育課程の取組　～地域や学校の強みを生かした、特色ある教育活動の推進と評価の実施～
ふるさとキャリア教育で得た「強みを生かす」という理念の基、本校が大館市の中心に位置することにより、多くの「ひと、こと、もの」に恵まれ、様々な体験活動を発揮できる強みがある。この強みを生かして、持続可能な大館を創る担い手を育成するための取組を行ってきた。今年度の有浦型ふるさとキャリア教育推進については、①ふるさとで学ぶ（体験活動）、②ふるさとを学ぶ（人材、歴史、名所）、③ふるさとに還す（成果の発表、地域行事への参加）のステップで学習を展開している。

②保護者、地域との連携　～学校・保護者・地域との連携と情報提供～
各学年の主な特徴的な活動については、以下の通りである。
１年生：幼保小交流会→「幼保小かけ橋ＰＪ」の取組として開催。人との関わりをしっかりと学ぶことができた。
２年生：まち探検→学区内の様々な事業所、店舗を訪問。それぞれの業務内容や人との関わりを学ぶことができた。
３年生：商店街等の見学→学区内の店舗を訪問。商売や人との関わりについて、具体的に学ぶことができた。
４年生：鳳凰山登山→自然の素晴らしさや、協力したり励まし合ったりしながら人との関わることを学んだ。
５年生：宿泊体験→自然の素晴らしさや、協力したり励まし合ったりしながら人との関わることを学んだ。
６年生：ミニ職場体験→学区内の店舗や事業所において各業務を体験し、その仕組みや人の思いを学んだ。

月１回の学校報の配布により、学校の様子を保護者や地域へ発信することができた。さらには緊急メールを活用し、リアルタイムで情報を保護者と共有することができたことで、児童の安心・安全に対応することができた。（豪雨や不審者、クマへの対応等）
ＰＴＡ活動の推進については、ＰＴＡの皆さんが「子どもたちの笑顔のために」という思いから、自主的に意欲的に活動しており、すばらしい展開をしている。引き続き、学校と連携しながら保護者と学校との信頼関係を築いていく。

【年度（→次年度）】
○大館市教育委員会が主導で運用している情報連絡ツール「Tetoru」を活用し、各学年のお便り及び学校報を電子化で保護者に提供した。保護者からは「いつでも、どこでも情報を見ることができてよい」、「カラーで見ることができるので、とても見やすい」などの意見を聞くことができた。また、お便りを電子化していることでペーパーレスにもなり、経済的な効果が見られている。

○今年度の大きな出来事は、熊の出没である。学校のすぐ近くに出没するケースもあり緊張が走ったこともあったが、外部機関との連携や保護者の送迎や教職員の対応が功を奏し、重大な事案がなく安堵している。

○12月6日には、「熊への対応」について大館警察署の方を招聘し、講習会を実施した。（児童対象）

○幼保小架け橋プロジェクトについては、秋、冬まつりや新一年生との交流会を通じて、共通の視点である「コミュニケーション力」「パートナー力」「自制力（自立力）」の育みについて、取り組んできた。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 特色ある教育課程の取組	(13)地域や学校の強みを生かした、特色ある教育活動の推進と評価の実施	大樹プロジェクトの充実、地域人材・素材の活用	3.3	3.5
		学校運営協議会、学校評価を活用した教育活動の改善		
10 保護者、地域との連携	(14)学校・保護者・地域との連携と情報提供	学校報の配布、緊急メールの活用、みんなの登校日の設定	3.5	3.9
		PTA活動の推進、地域行事への参加、幼保中との連携		

①特色ある教育課程の取組

「曲げわっぱ体験」（6年生）
　曲げわっぱ協会のご支援のもと、貴重な体験をすることができた。今後、給食の時間に実際に曲げわっぱを使用することとしている。

「幼保小の交流 あきまつり」（1年生）
　秋に採った木の実や葉っぱ等を使った工作等を園児にプレゼントしたり景品にしたりしながら、活動を楽しむことができた。

「熊対応集会」（全校）
　熊の特性や熊との遭遇時の対応について、大館警察署の方からご指導をいただいた。

「ウィンターコンサート」（全校）
　外部から演者をお招きし、冬にちなんだ歌やクリスマスソングを聴いたり歌ったりしながら、冬の訪れを楽しむことができた。

②保護者、地域との連携

「きりたんぽまつりでのボランティア活動」
地域の行事に積極的に参加し、交流を図った。

「さつまいも掘り」（2年生）
地域学校協働活動のコーディネーターが橋渡しとなり、地域の方にもボランティアとして参加していただき作業をすることができた。

教育目標具現のための適正な運営組織と分掌分担
PDCAサイクルを踏まえた組織的活動と学年部・指導部の連携
充実した諸活動を保障する適切な教育計画の立案と実施
夢をはぐぐむふるさとキャリア教育の充実

・今年度は，前年度より3学級増の全22学級（特支学級3）となり，新年度がスタートした。学級増により職員数も増え，運営組織の分掌も特定の職員に集中しないよう分担がなされている。
　昨年度末の反省から，月の実践事項が多すぎて十分取り組めないという状況を，月目標を整理して一本化して取り組んでいくことを学習，生徒，保体の各指導部長と確認し進めることにより，焦点化されPDCAサイクルを前年度より機能させることができている。
・「サケたちの大冒険」は三年目となり，教育計画の中に位置付けられて計画的に実践できるようになってはきているが，まだ職員の意識として見通しをもてていない面も指摘されている。今後，この活動を通してふるさと大館へのどんな想いをもつ子どもたちを育てていくかを共通理解して進めていきたい。
（後期の取組）
・来年度から先行実施される「外国語活動」における時数増を，教育課程の中でどう編成していくかが二学期の最優先事項であると認識し，学校全体として考えていきたい。